

市民リポーター
紺野由美子さん



●この ゆみこ
若草町在住。
釧路市出身。現在、5歳
の息子を育てる主婦。ふ
おれすと鉱山で行われて
いる、さまざまな自然体
験プログラムに、親子で
積極的に参加している。



▲▶ 木のおもちゃや
遊具に子どもが
ちの集まると
あそび場『森の
あそび場』

木とふれあい、 木に学び、 木と生きる

ふおれすと鉱山^{もく い}木育プロジェクト

木育を通して
豊かな心をはぐくむ

『木育』とは、平成16年から北海道が進める政策で、子どもをはじめとするすべての人が、『木とふれあい、木に学び、木と生きる』取り組みです。木育が目指しているものは、子どものころから森や木とふれあうことを通して、豊かな心をはぐくむことです。

ふおれすと鉱山とNPO法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶが協働で進めている『ふおれすと鉱山木育プロジェクト』では、子どもから大人まで、多くの方が

いま、ふおれすと鉱山では、
鉱山地区の豊かな自然を活用した
『森と木を使った子育て支援
ネットワークづくり推進事業
(ふおれすと鉱山
木育プロジェクト)』が行われ、
子どもから大人まで、
さまざまな方が参加しています。
このプロジェクトに携わっ
ている方を訪ね、そのねらいや、
取り組みについてレポートします。

自然とのふれあいで
子どもの情操教育を

森や木に親しむことのできるさまざまな自然体験プログラムを提供しています。
このプロジェクトや、100年先の森づくりを目指す『里山づくり』について遠藤潤さん(ふおれすと鉱山職員)と松原條一さん(モモンガくらぶ理事長)にお話を伺いました。

『ふおれすと鉱山木育プロジェクト』を始めたいきっかけやねらいを教えてください。

遠藤さん 鉱山町には、森や木など、ふれることのできる身近な自然がすぐそばにあります。それに

木育の考え方が合っていたのと、子育てや幼児体験には自然とのふれあいが足りないという現状を踏まえ、子どもたちに自然体験を提供できる場があるかと気付いたことがきっかけでした。
松原さん 森や川など、自然に囲まれて過ごすことは、子どもたちの情操教育にも役立つといわれています。『ふおれすと鉱山木育プロジェクト』は、自然体験を通して子育て支援のネットワークを構築しようというのが目的です。

そのためには、いかに多くの子どもや保護者の方に、ふおれすと鉱山へ足を運んでもらうかが重要。自然にふれる機会と場をどう提供し、自然が楽しいと感じてもらえるかを常に考えています。『ふおれすと鉱山木育プロジェクト』は、そのきっかけづくりでもあります。



松原 條一さん

『ふおれすと鉱山木育プロジェクト』では、どのようなプログラムを展開していますか。

松原さん 子どもと保護者が対象の『森のサロン』『もりのようちえん』、小学生対象の『ながづつ